

# 岐阜県中山間農業研究所ニュース

2017年度 第4号

寒い冬がやってきました。今年の研究もほぼ調査が終了し、各研究員は担当する試験結果の取りまとめや成果検討会に向けた準備に励んでいます。

さて、4回目のニュースの内容は、モモ台木「ひだ国府紅しだれ」、飛騨桃の輸出、エゴマの機能性に関する研究について紹介します。

研究成果は、本稿最後に記載した日時・場所で検討会を行います。是非ご参加いただき、研究に対するご意見や要望を頂きたいと思っております。お待ちしております。



©岐阜県

本 所 〒509-4244 岐阜県飛騨市古川町是重2-6-56  
TEL: 0577-73-2029 FAX: 0577-73-2751

中津川支所 〒509-9131 岐阜県中津川市千旦林43-1  
TEL: 0573-68-2036 FAX: 0573-68-3116  
<http://www.k-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/>

## ● 全国農業研究功労者表彰を受賞しました

昨年の6月22日に東京都にある三会堂ビル石垣記念ホールで開催された受賞式において、当研究所の宮本試験研究部長が研究功労者表彰を受賞しました。この表彰は、農業分野の研究において顕著な業績をあげた者に対して、全国農業関係試験研究場所長会より贈られるもので、今年は全国の試験研究機関から12名が選ばれました。

今回の受賞は、長年取り組んできた「モモの枯死原因究明と防止技術の開発」に関する業績が高く評価されたものであり、生産者と共同育成した「ひだ国府紅しだれ」は、枯死樹の発生防止に有効な台木として、岐阜県を始め全国での利用も広まっています。

今年も職員一同、役立つ技術開発を目指して頑張りますので、皆様方のご支援・ご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。 【所長 米山誠一】



「ひだ国府紅しだれ」原木



接ぎ木

台木養成



会長(写真右)との受賞記念撮影

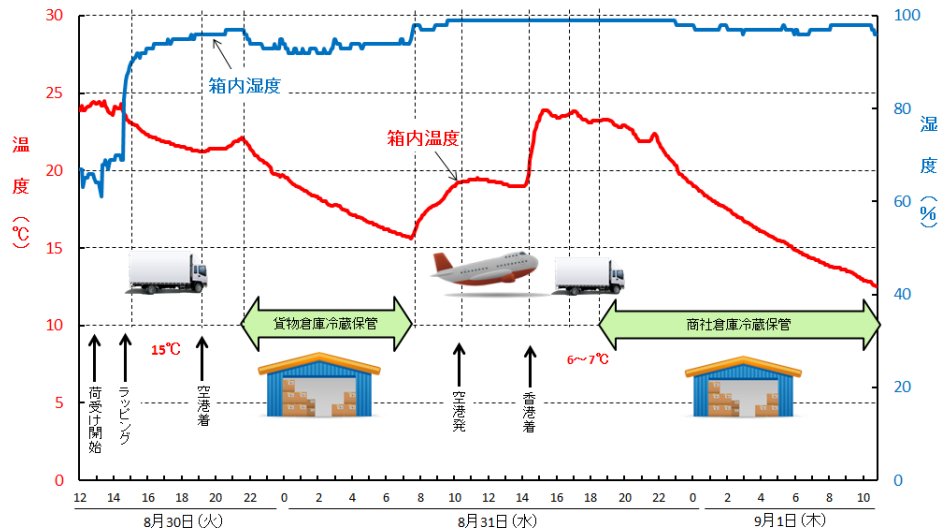
## ● 飛驒桃の輸出時における出荷箱内の環境を調査しました

飛驒桃の本格的な輸出が始まり、本年度で二年が経ちました。当所では輸出された果実が出荷箱内でどのような環境に晒されているのか調査しました。昨年の結果を踏まえ、出荷輸送方法を変更した結果、本年は箱内の過湿を改善できました。詳細は2月13日開催の研究成果検討会にてご報告いたします。

【本所 水野文敬】



出荷時の荷姿(2016.8.30)



箱内の温湿度の変化(2016.8.30-9.1)

## ● 機能性を生かした飛驒産エゴマの差別化

エゴマの持つ機能性に注目が集まり、全国的に知名度が上がり栽培がさかんになっています。そこで、他産地との差別化を図るため、エゴマに含まれる機能性成分に着目した新品種育成、多収穫栽培技術及び搾油前焙煎技術等の開発を行っています。

昨年度までに、焙煎温度を通常よりも低くすることで機能性成分を維持できることが明らかとなりました。現在はさらに最適な焙煎温度の検討を行っており、差別化可能な焙煎技術の確立を目指しています。 【本所 田中良憲】



焙煎時のエゴマ

## ● 成果検討会のお知らせ (参加希望があれば事前にお知らせください)

### ■ 本所(試験研究成果検討会)

日時：平成30年2月13日(火)13時00分～  
場所：飛驒総合庁舎分館3階大会議室

### ■ 中津川支所(合同成果発表会※)

日時：平成30年2月1日(木)13時00分～  
場所：恵那総合庁舎5階大会議室

※恵那農林事務所農業普及課と共催



前回成果発表会の様子(本所)